

今、何の病気が流行しているか！

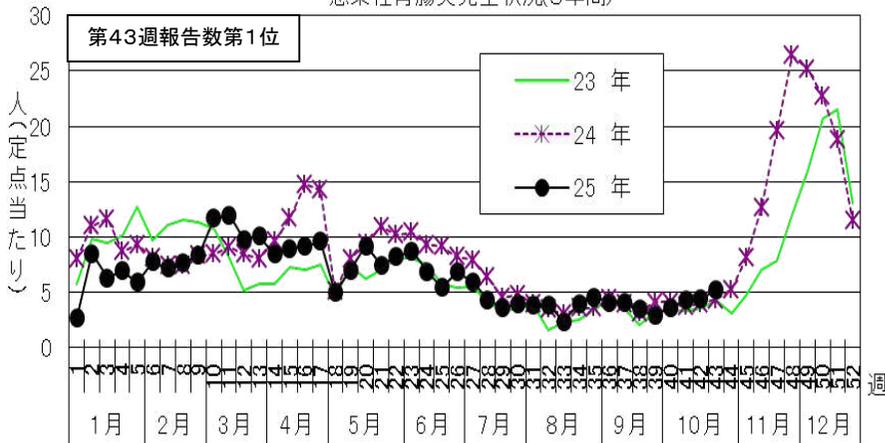
【感染症発生動向調査事業から】



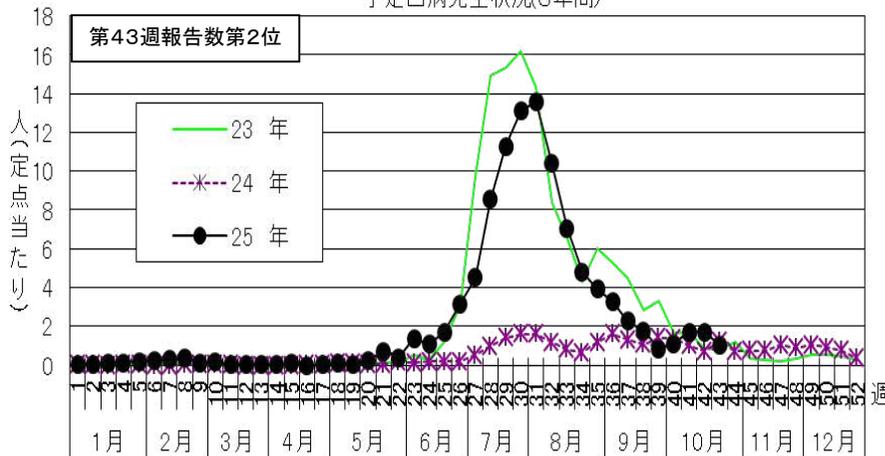
平成25年10月21日(月)～10月27日(日)〔平成25年第43週〕の感染症発生状況

第43週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)手足口病 3)RSウイルス感染症 でした。
 感染性胃腸炎は定点当たり5.30人と前週(4.42)より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 手足口病は定点当たり1.03人と前週(1.70)から患者報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 腸管出血性大腸菌感染症(O145)の届出が1件ありました。引き続き発生動向に注意が必要です。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



手足口病発生状況(3年間)



特に乳児は要注意！！～RSウイルス感染症～

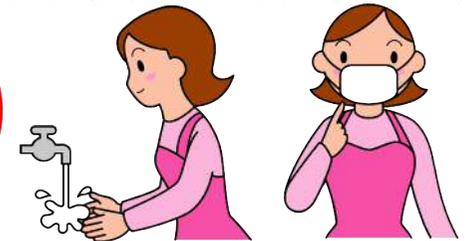
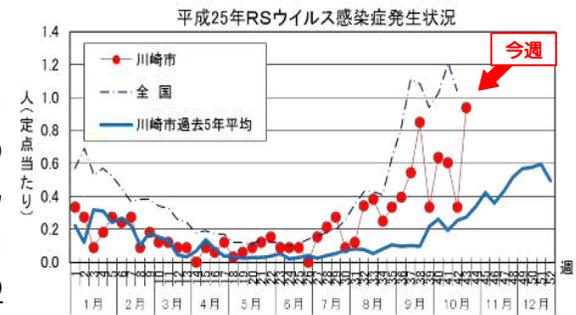
RSウイルス感染症(respiratory syncytial virus infection)は、RSウイルスの感染による呼吸器の感染症です。RSウイルスは世界中に分布しており、日本では例年12月を中心に流行します。今年も、全国及び川崎市において、例年を超える勢いで患者数が増加していますので、注意が必要です。

? どんな症状が出るの?



RSウイルスに感染すると、2～8日の潜伏期間において、発熱、鼻汁などの症状が数日続きます。多くのお子さんは、鼻汁などの上気道炎症状のみで数日のうちに改善しますが、初めて感染する乳幼児の約3割では咳などが悪化し、喘鳴、呼吸困難症状などが出現します。特に生後1か月未満の乳児では無呼吸発作を起こすこともあり要注意です。

重症化リスクの高い基礎疾患を有する小児(特に早産児や生後24か月以下で心臓・肺・神経・筋疾患や免疫不全の基礎疾患がある小児等)や、生後3か月以内の乳児は特に注意が必要です。



～手洗い・マスクを徹底しましょう～